

各学科における教員養成の理念

■文学部 日本語日本文学科（中一種免（国語）、高一種免（国語））

日本の伝統文化の継承と新たな文化の創造を学科教育の基本理念とし、日本語学・日本文学及びその関連分野の教育・研究を通じて、社会に有為な人材を養成することを目的としている。

教員養成においては、中高「教科に関する専門的事項」並びに「国語科指導演法」を中心に日本語学・日本文学に関する専門科目の学修を通して、幅広い専門的教養とともに専門的研究の力量を身につけた中高国語科教員の養成を目指している。

■文学部 日本語日本文学科（高一種免（書道））

日本の伝統文化の継承と新たな文化の創造を学科教育の基本理念とし、日本語学・日本文学及びその関連分野の教育・研究を通じて、社会に有為な人材を養成することを目的としている。

教員養成においては、書道に関する専門科目並びに高校書道科指導演法に加えて、日本語学・日本文学に関する専門科目の学修を通して、幅広い専門的教養とともに専門的研究の力量を身につけた高校書道科教員の養成を目指している。

■文学部 歴史文化学科（中一種免（社会）、高一種免（地理歴史））

日本の伝統文化の継承と新たな文化の創造を学科教育の基本理念とし、日本語学・日本文学及びその関連分野の教育・研究を通じて、社会に有為な人材を養成することを目的としている。

教員養成においては、中高「教科に関する専門的事項」並びに「国語科指導演法」を中心に日本語学・日本文学に関する専門科目の学修を通して、幅広い専門的教養とともに専門的研究の力量を身につけた中高国語科教員の養成を目指している。

■文学部 英語グローバル学科（中一種免（英語）、高一種免（英語））

【Ⅰ】幅広い教養と豊かな人間性を育む全人教育を実践し、人・家庭・社会に貢献できる女性の育成を目指すという本学の目標と理念の下に、英語教育の分野において幅広く活躍することのできる人材の育成を目指す。

【Ⅱ】教員養成に関する理念は、「言語や文化に対する理解」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」「聞く・話す・読む・書くコミュニケーション能力の育成」の指導を学校現場で行うことのできる、実践力ある中高英語教員の育成である。さらに児童英語・児童文学に関する科目を設置し、外国語教育において理論的実践的な力量のある人材を育成する。

【Ⅲ】上記の目的を達成するために、1年次から4年次まで「英語を聞く・話す・読む・書く」能力を育成する基礎的な科目を一貫して設置している。

■教育学部 教育学科（幼一種免、小一種免、中一種免（国語、英語）、特支一種免）

大学が掲げる立学の精神と教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、時代と社会の要請に応えつつ高度化していく教育・保育を担える女性の育成を目的とする。

そのために、教育学・保育学の優れた知見を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、国内・国外の様々な教育・保育の場において必要とされる実践的指導力、高い意欲と創造性を身につけることを目標とする。

■健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科

(中一種免(保健体育)、高一種免(保健体育))

幅広い分野で運動・スポーツの実践的リーダーを育成することを学科教育の根本理念としている。健康・スポーツ・体育に関連する分野の研究・教育と実践を通して、幅広い活動の場、幅広いニーズに対応してきた。なかでも、①学校体育における教科・部活指導者の養成、②豊かなスポーツライフを達成する指導者の育成、③地域スポーツ、競技スポーツ、民間・公共の健康・スポーツ施設における運動指導者・支援者の育成、④地域社会における健康・スポーツ事業に従事する者の育成である。特に①の教職課程においては、スポーツ教育・競技スポーツ・健康スポーツなど多目的・多様な要求に応えうる教員の養成を目指している。

■健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科

(中一種免(保健体育)、高一種免(保健体育))

幅広い分野で運動・スポーツの実践的リーダーを育成することを学科教育の根本理念としている。健康・スポーツ・体育に関連する分野の研究・教育と実践を通して、幅広い活動の場、幅広いニーズに対応してきた。なかでも、①学校体育における教科・部活指導者の養成、②豊かなスポーツライフを達成する指導者の育成、③地域スポーツ、競技スポーツ、民間・公共の健康・スポーツ施設における運動指導者・支援者の育成、④地域社会における健康・スポーツ事業に従事する者の育成である。特に①の教職課程においては、スポーツ教育・競技スポーツ・健康スポーツなど多目的・多様な要求に応えうる教員の養成を目指している。

■生活環境学部 生活環境学科 (中一種免(家庭)、高一種免(家庭))

衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した環境として捉え、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的能力を持った有為な女性を育成することを目的としている。この中において、教員養成においては「衣」と「住」を中心に得られた理論と実践の総合的な能力、創造性を基盤にして、生徒たちの快適で健全な生活環境を考えていく力や創造性豊かな生きる力を育み、全人的発達(自分の頭で考える・自分の手で作る・自分の心で思う)を促すことのできる教員の養成を行うことを目的としている。

■社会情報学部 社会情報学科 (高一種免(情報))

情報化社会において最も適切な生活行動を設計し、かつ、採用し得る知識技術・感性を身につけた人材を養成することによって、自ら豊かな人生を享受することのできる生活者を輩出すること、さらには、そうした社会を実現するために必要不可欠な産業や行政、教育等の社会活動に貢献することができる人材を輩出することを目的としている。教員養成は情報化社会の生活者としての知識技術、及び、情報教育の重要性を身につけた女性指導者の育成を目指すもので、学科が社会へ還元する専門的知識や情報の収集・加工・発信能力を身につけた人材育成の重要な位置を占めている。

■音楽学部 演奏学科 (中一種免(音楽)、高一種免(音楽))

単に演奏技術を学ぶだけでなく、ひとに感銘を与える演奏、人間愛に基づいた演奏のあり方を追

求し、高い演奏技術を養う。教員養成の教育においては、和声法、音楽史、作・編曲法等の音楽理論科目を通して専門知識を深め、声楽、器楽の個人実技レッスン科目はもとより、邦楽や指揮法等の実技を伴う科目で高い技能を習得する。

さらに演奏を通して音楽が人間の精神に与える影響や、人間性や社会性を培うことについても追究し、教育現場でも生かされ次世代に伝えるべく研鑽を積む。

■音楽学部 応用音楽学科 (中一種免(音楽)、高一種免(音楽))

音楽を道具として利用・応用する点から学び、音楽療法に加え、生涯学習・社会教育・レクリエーションといった地域社会における指導や音楽活動に有効な技能や企画・運営力を身につける。教員養成の教育においては、和声法、音楽史等の音楽理論科目を通して専門知識を深め、ピアノをはじめとした多種にわたる実技・演習科目で技能を高める。音楽療法や音楽活用といった専門知識も生かし、音楽が人間に与える充実・安定といった作用について、さらには人間性や社会性を培うことについても追究し、音楽を通して社会貢献すべく学習を深める。

■薬学部 健康生命薬科学科 (中一種免(理科)、高一種免(理科))

薬学教育制度改革に伴って新設された4年制の学科であり、本学が理系教育の主要テーマとしている「健康科学」と「生命科学」に重きをおいて“薬の科学”の教育と研究を行うことによって、薬と健康に関連した多彩な分野で社会に貢献できる有為な人材を育成することを主たる教育目標としている。“薬の科学者”は、生命科学、有機化学、物理化学など自然科学の広い基礎知識の上に、薬学の専門知識を積み上げて、物質と生命との接点で生じる多彩な問題を多面的に考える能力を有する人材であり、環境や生命に関する課題が占める割合が増している21世紀の理科教育を担当する教員としてその能力を発揮することが期待される。このような認識に基づいて、生命、健康、環境などに対して幅広い見識をもって後進の指導に当たる中学校・高等学校理科教員を育成することが、本学における教員養成に対する理念・構想である。

■環境共生部 環境共生学科 (中一種免(理科)、高一種免(理科))

環境問題に関する課題発見・課題解決能力の養成のために、体験や問題意識を出発点として、環境管理技術、生物工学、エネルギー・資源・化学物質の利用、ソーシャルデザインなどの実用・応用を見据えた科目群を、自ら組み合わせて学び、日々変化する環境問題に対応できる専門性と創造的能力を持った人材を育成する。教員養成の教育においては、理科の各分野を知識として広く学ぶだけでなく、フィールド・環境施設実習および社会連携プロジェクトを軸として、課題抽出と解決に向けた姿勢に基づいて、科学的な計測と評価、社会との連携および働きかけを含む課題解決のための行動を起こせる能力を養う。理科を通して物事の本質をとらえ、教育現場において主体的・対話的な深い学びを実践しうる人材の育成を目指す。

■食物栄養科学部 食物栄養学科 (栄教一種免)

以下の2つの目標を設定し、有為な栄養教諭を養成し、もって人・家庭・地域社会に貢献する。

① 家庭環境、社会環境の変化に伴う食習慣・食文化継承の減衰、過剰栄養や栄養のかたよりに引き起こされる生活習慣病の増加などの諸問題に適切に対処するとともに、その専門的知見と技能を学校教育に活用できる。

② さらに、健康な国民の育成、すなわち次代を担う児童・生徒の全人教育を食物栄養学の専門的知見を積極的に活用しつつ推進し、「学校給食の管理」及び「食に関する指導」を一体のものとして実践できる。